

令 和 3 年 度

事 業 計 画

自 令和3年 4月 1日

至 令和4年 3月 31日

公益財団法人 日本自動車教育振興財団

令和3年度 事業計画

I. 事業計画概要

- ・日本自動車教育振興財団は、「社会と自動車のより良い関係を形成するため、高等学校における自動車及び交通に関する教育の支援事業を行い、我が国の交通社会及び交通文化の健全な発展に寄与すること」を目的とし、工業高校を主な対象とした自動車技術教育と全高校を対象とした交通社会教育に並行して取り組む。
- ・技術の進展により自動車産業が転換期を迎える中で自動車及び交通に関する教育も新しい視点が求められている。また、自動車教育を行う教育現場においては教員の高齢化や減少といった課題を抱えており、高等学校における自動車教育支援の在り方を一層強化するとともに、教育現場におけるオンライン授業の拡大、ICT化に鑑みデジタル教材の開発、提供を行う。
- ・技術教育支援事業においては、「見る・触れる・感じる」をコンセプトに教育現場のニーズに沿う教材の提供を行う。また、財団設立30周年を機に、技術専門員を採用し、様々な新規活動により教員支援を強化する。併せて若者のクルマ離れが進行している状況下、技術系講師派遣では実車を活用し「見る・触れる・感じる」機会を設けていく。
- ・研修事業においては、高等学校の先生方を対象とした研修会を引き続き実施するとともに、交通安全に関する講師派遣を中心に令和2年度以上の実施件数、参加者数を旨す。
- ・調査研究事業においては基礎的情報収集として国内外の調査、及びクルマに対する高校生意識調査を実施する。また、令和2年度に公開した新副教材「公共」副教材2021の改訂版を制作する他、既刊副教材のデジタル化に着手する。
- ・普及啓発事業においては、令和2年度に開設した動画学習サイト『早わかり！クルマ塾』のコンテンツ充実やSNSの更なる活用を通じ、教育支援、情報提供を行っていく。

II. 事業活動

1. 技術教育支援事業

(1) 教材提供活動

①公募

- ・自動車技術教育等を実施している高等学校を対象に定期的に広域公募を行い、広く自動車技術教育教材を提供する。
- ・令和3年度においては、15府県（下記ピンクの地域）の311校を対象に公募案内を行い、同地区前回提供校数（102校）と同数校への提供を見込む。

令和3年度

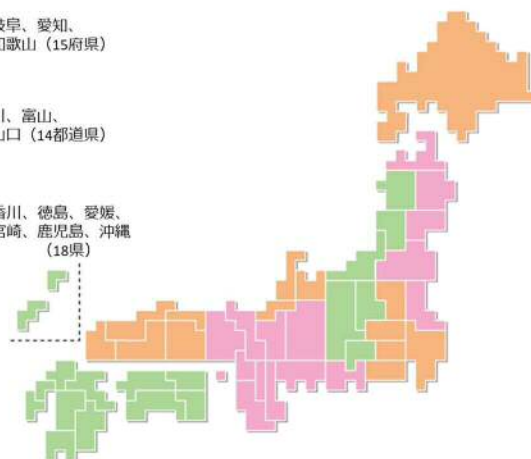
青森、岩手、宮城、福島、茨城、静岡、岐阜、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、三重、和歌山（15府県）

令和2年度

北海道、栃木、埼玉、東京、千葉、神奈川、富山、石川、福井、鳥取、島根、岡山、広島、山口（14都道県）

平成30年度

秋田、山形、新潟、群馬、長野、山梨、香川、徳島、愛媛、高知、福岡、大分、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄（18県）



②提供教材メニュー

- ・自動車の構造に関する基本的な解説教材から、ハイブリッド・EVなどの最新技術に関する解説教材、さらには故障診断に関する応用的な教材まで幅広く揃え、教育現場のニーズに応じて提供していく。
- ・令和2年度の募集で全ての教材に申請があったことから、メニューの改廃は実施せず過去最大の30メニュー募集を実施する。

【令和3年度提供教材メニュー（案）】

1. 自動車の基礎・電気	2. 自動車基礎とエンジンの作動	3. 動力伝達 駆動・制動・走行装置の作動	4. 自動車の電気 電子制御/モーター 基礎実習セット	5. ハイブリッド自動車と電気装置	6. DVD/テンプレ「自動車メカニクス」
7. 動く開閉装置 4サイズ/2サイズ	8. 制御装置 4サイズのソリッドエンジン(EFI)	9. ハイブリッドシステム模型	10. 駆動用タイヤ実習セット	11. 模型で学ぶセンサー技術	12. サスペンション模型
13. 四輪ホイールアライメントモデル	14. 分解組立用エンジン(汎用・126cc)	15. 分解組立用キャブレターエンジン 660cc	16. 分解組立用電子制御エンジン 軽自動車660cc	17. 分解組立用電子制御エンジン 小型車1300cc	18. 実習用工具セット
19. 実習用工具トルクレンチ	20. 急速充電器	21. 車庫型手動ジャッキ足踏付 2t	22. エンジンスタンド<輸送型>	23. トレーニングリーキット	24. 燃料電池実習キット
25. 燃料電池システム(エコラン大会用)	26. ビデオスコープ	27. 灯火点検実習装置	28. 実車(中古車)	29. エンジン実習装置	30. スキャンツール(外部故障診断機)

(2) 教員支援活動

- ・財団設立 30 周年を機に、より実践的な教育の支援の為、技術専門スタッフを採用し、これまでの訪問指導と一般支援に加えて、以下の新規活動を立ち上げる。
- ・組立式 EV 特別講習の募集実施 財団の技術専門スタッフが講師となる、財団独自の出前授業を募集実施。令和3年度は最大6回の実施を見込む。
- ・「汎用エンジン分解組立解説DVD」の作成提供 例年一番人気である汎用エンジンについて、学校から要望が多い分解組立の解説DVDを作成し、教員研修や実習授業での活用を目指す。
- ・「自動車の基礎・電気」のリニューアル作成 製作から25年から30年経過し、リニューアルの要望が多かった現行DVD教材のリニューアル作成と提供。

(3) 協賛支援活動

- ・自動車技術教育の振興に関する広域活動に対して助成支援を実施する。併せて、生徒が取り組むエコカーレース等の自動車技術に関する教育イベントや、交通社会に関する教育研究会等の協賛支援を行う。

(4) 交流促進活動

- ・各都道府県の自動車教育推進協議会と連携して、工業高校等の教育関係者に対する提供教材の目録贈呈式・教育懇談会を教材提供の県で開催し、県単位で交流促進を図る。
- ・インターンシップ等を通じた各自動車教育推進協議会と高校との関係強化に向け、自販連会員会社の相談窓口一覧等の作成提供を呼び掛ける等の支援を実施する。

2. 調査研究事業

(1) 調査研究活動

- ・ 交通社会、交通文化の健全な発展を考えるための基礎的な情報収集活動として、国内外の都市交通の実態調査を継続して実施する。令和3年度においては、国内調査を3回程度、海外調査を1回行う。

【国内調査案】

	第1回	第2回	第3回
日程	4月	8月	未定
目的	小型モビリティ(配送ロボット)による近距離配送サービスは、配送従事者の人手不足と共に、コロナ禍で更にニーズが高まっている。同サービス実現に向けた課題と対応を調べる。	電動キックボードの活用に向け、各地で実証実験が行われているが、4月以降は警察庁がヘルメット無しでの実験を認める方針*。新たなパーソナルモビリティ実現加速の動きや課題を調査。 *一部報道より	時宜に合ったテーマを別途選定
調査先	東京都	東京都 他	未定

【海外調査案】

日程	9月
目的	新技術・自動化に纏わる各種取り組み(空飛ぶタクシー開発、自動運転タクシー実験走行、施設内搬送ロボット実用化)の実態、及び今後の課題を調査
訪問先	シンガポール

- ・ クルマに対する高校生意識調査を実施(首都圏・近畿圏・九州圏の高校生300名に対するウェブ調査、2013年より隔年実施)。

(2) 教材作成活動

- ・ 令和2年度に開設した動画学習サイト『早わかり!クルマ塾』にて、工業系科目(自動車工学等)、地歴公民科(公共等)、総合学習に活用可能な動画コンテンツを継続的に制作し、内容の充実を図る。
- ・ 令和2年度にウェブ公開した新副教材“「公共」副教材2021”の改訂版を制作する他、学習形態の多様化に対応すべく、既刊副教材(『クルマを通じて社会を考える』)のデジタル化に着手する。



動画学習サイト『早わかり!クルマ塾』
(ウェブページ)



新副教材“「公共」副教材2021”
(ウェブページ)

3. 研修事業

(1) 財団研修会活動

- ・JAEF 研修会（財団が主催する高校教諭を対象とした研修会）を開催し、自動車や交通社会を学ぶ機会を広く提供する。令和3年度のJAEF研修会については、コロナ禍の影響および東京オリンピック・パラリンピック開催に伴い夏季休暇中のJAEF研修会に制約があることから2回の開催とする。

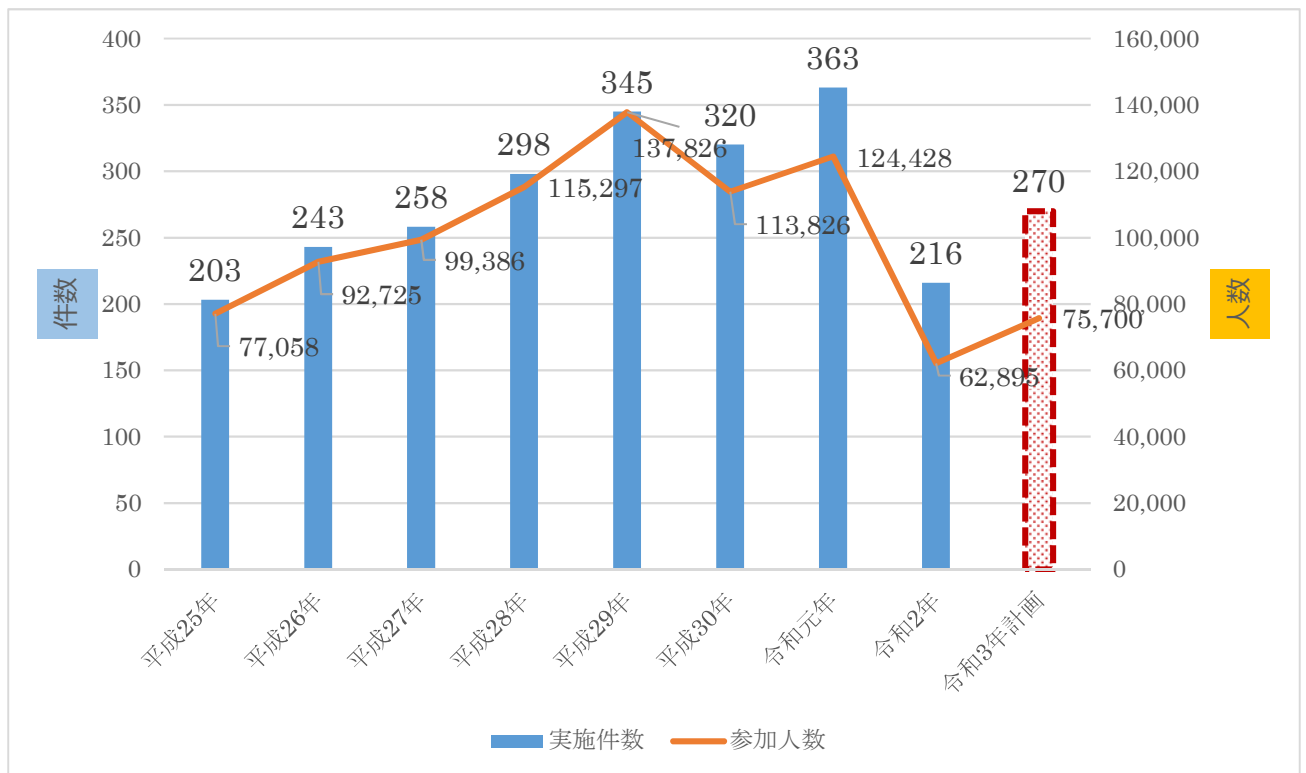
【研修会開催案】

回	講演	見学・体験	日程（定員）	場所
第1回	講演「効果的な交通安全教育手法」について（仮）	ツインリンクもてぎにおける交通安全トレーニング実習	8月（44名）	栃木
第2回	講演「トヨタMIRAIの開発」について（仮）	トヨタ本社地区の施設見学（仮）	8月（40名）	愛知

(2) 講師派遣活動

- ・講師派遣活動（県教育委員会、教員団体、学校等が主催する研修会や講演会への講師の派遣）では、自動車技術系と交通社会系からなるメニューを用意し、全国の高等学校及び関係団体を対象に広く公募を行う。
- ・令和3年度は研修メニューの一部見直しを行う。
- ・実施件数、参加人数については、コロナ禍の影響でキャンセルが相次いだ令和2年度を超えることを見込む。

【派遣件数・参加人数】



（注）平成25～令和元年度は実績値、令和2年度は見込み値、令和3年度は計画値

【講師派遣メニュー】

区分		研修メニュー		講師派遣団体・企業
自動車 技術教育	最新技術	1	トヨタ・ハイブリッド車について	トヨタ系販売会社
		2	日産・電気自動車について	日産系販売会社
		3	ホンダ・ハイブリッド車について	ホンダ系販売会社
		4	マツダ・SKYACTIV エンジンについて	マツダ
		5	三菱・プラグインハイブリッド車について	三菱自動車工業
	整備技術	6	ガソリンエンジンの分解・組立	自動車整備振興会
		7	トランスミッションの分解・組立	自動車整備振興会
		8	電子制御エンジンの構造と点検・整備	自動車整備振興会
	環 境	9	地球温暖化防止と自動車技術（次世代自動車とインフラ）	自動車関係団体、他
	交 通	10	交通技術と社会のあり方（自動運転技術の現状と方向性）	自動車関係団体、他
11		交通技術と社会のあり方（自動運転と紛争解決）	自動車関係団体、他	
交通社会 教育	交通安全	12	ドライバー・自転車・歩行者から見た交通安全	日本自動車連盟
		13	夜間の交通安全対策	日本自動車連盟
		14	交通事故を起こして問われる責任	日本損害保険協会
		15	自転車を取り巻くリスクとその責任	日本損害保険協会
		16	二輪車（バイク）の交通安全～高校生のための Safety Riding	日本二輪車普及安全協会

4. 普及啓発事業

（1）普及啓発活動

- ・動画学習サイト『早わかり！クルマ塾』のコンテンツ充実により、自動車教育支援の更なる強化、クルマへの関心・理解向上を図る。
- ・SNS（メルマガ、Facebook）を通じた情報発信、外部の教育関連ポータルサイト（SENSENI PORTAL 等）への情報展開を継続実施する。発信情報をより広く伝えるべく、令和3年度よりツイッターを活用する他、教育関係メディアとの関係拡大・強化に取り組む。

（2）広域普及啓発活動

- ・高等学校関係者以外にも自動車教育、財団活動を広く知り理解してもらうために、ニュースリリース（JAEF NEWS）のタイムリーな発行、ホームページの充実、活動報告書（JAEF REPORT）の発行など多彩な情報発信を継続的に実施する。
- ・特にニュースリリース（JAEF NEWS）については、きめ細かい発行（従来約20回⇒約30回）によりメディアでの記事化を促進し、財団活動の認知向上を図る。

【発行計画】

媒体	計画
JAEF NEWS	約30回
JAEF REPORT	4回

Ⅲ. 財団運営

1. 収支予算

- ・収入（経常収入）は、より利率の高い債券への入れ替えで約330万円の増収貢献があるものの、関連団体の賛助会費の一部減少（400万円）により、66万円減の7,578万円。
- ・支出（経常費用）は、引き続き効率化に努める一方で、自動車技術教育支援策の強化（教員支援を目的とした特別講習の設定）等により、137万円増の7,955万円。

【収支予算：一般正味財産増減の部】

（単位：千円）

		令和3年度予算	令和2年度予算	増減
経常増減の部	経常収益	75,776	76,440	▲664
	経常費用	79,549	78,178	+1,371
	当期経常増減額	▲3,773	▲1,738	▲2,035
経常外増減の部	当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額		▲3,773	▲1,738	▲2,035

2. 運営

- ・引き続き関係法令に沿った財団運営に取り組んでいく。

以上